

令和2年度第4回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和2年12月21日（月）14：30～16：00

2 場 所 湖南高等学校 図書室

3 参加者

委員（敬称略・順不同）

小山伝一郎、佐藤忠男、石田慶仁、満田仁一、和田祐樹、酒井祐治

事務局

遠藤潤、熊谷明彦、渡邊大典、鈴木さゆり、渋川敦志

オブザーバー

阿部昭（福島県県中建設事務所主任主査）、

松本拓馬（福島県県中建設事務所技師）

4 内 容

（1）開会のことば 満田仁一氏

（2）会長あいさつ 小山伝一郎氏

久々に授業参観をした。生徒がみな真剣に勉強している姿を見て安心した。年末のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

（3）校長あいさつ

今年一年を終えるにあたり、湖南地区に対して様々な思いが芽生えてきた。蕎麦プロジェクトの成功は、地域の方や同窓会の協力のおかげだ。地域探究のカレー作りも苦勞したが、生徒たちにとっていい経験になった。先日、本校を会場にして開かれた「あすチャレ」にも地域の方々に多く参加していただいて、成功した。今後、蕎麦の6次化に向けた取組が1月から始まる。それにも期待したい。

授業については、国数英の3教科は習熟度別授業を行っている。しかし、その指導体制は来年度も保証されているわけではない。県に強く訴えていきたい。ボイラーも修繕の必要な箇所が複数ある。施設面でも県に要求していきたい。

県中建設事務所の方々にはオブザーバー参加していただいている。来年度に向けて、様々な熟議をお願いしたい。

(4) 協議

①第3回学校運営協議議事録の説明：遠藤教頭

(意見等、特になし)

②先進校視察研修報告：熊谷教諭

尾瀬高校視察報告をスライドを用いて説明

(協議検討内容)

▽ホームステイ制度について

- ・かつて湖南町でも似たような取り組みを行ったことがある
- ・地元旅館も下宿受け入れには積極的ではあるらしい
- ・生徒たちのメリットを最優先に考えるべきであるし、人との出会いの観点でもメリットは大きい
- ・地域の活性化のためには必要であるが、詳細を決めないとうまくいかないだろう。検討し、ぜひ進めてほしい
- ・空き家もどんどん増えているので、それらを活用する方法はないか
- ・生徒を呼ぶための目的を明確にしていくことが必要
- ・今の湖南で尾瀬のような魅力を作るのは難しいのでは
- ・学校カリキュラムの魅力化、システムの制度化を図らないと定着しない
- ・「普通科」の中でも柔軟性をもって魅力を作ることもできるのではないか
- ・過去の下宿について、当時はまだ地域と学校の連携ができていなかった可能性もある。今はお互いの連携がしっかりできるのではないか
- ・行政との連携が必須
- ・生徒も含めた関係各所のワーキンググループの創設が必要ではないか

▽ホームステイ制度以外について

- ・磐梯朝日国立公園の環境事務所との連携も可能では

③蕎麦プロジェクト：熊谷教諭

これまでの蕎麦プロジェクトの概要説明

(意見交流)

- ・収穫時期と試食会のタイミングも理想的で、おいしいそばを作ることができた
- ・生徒の蕎麦打ちはとても上手だった
- ・地元新聞やテレビに取材してもらったが、メディアの力は大きいので、今後も活用していきたい

④令和3年度のコミュニティ・スクール：酒井校長

今年の取り組みは、地域への還流を目的として行ってきた。6次化商品も湖南地域の活性化につながってほしい。同時に生徒が主体性を持った活動を行っていききたい。古民家デザインやレンタサイクル、野菜販売など、アイデアを提供しつつも、生徒が主体的に考え、活動する取り組みを行っていききたい。学校魅力化のためにも生徒が様々な「体験」をすることが非常に重要である。それらを湖南高校で「体験」できるよう取り組みたい。

(意見交流)

- ・湖南高校の職員人事、特に管理職を安定させてほしい

⑤その他

- ・湖南高校及び湖南町についてのアンケートについて：熊谷教諭
次回の協議会で集計結果を提示
協議会委員も提出していただきたい

(5) 閉会のことば：満田仁一氏

(16:10 終了)